

ハイチ レオガン日記 第3弾

今回は、池田からの最後の「ハイチレオガン日記」になります。今回は「家族計画」と「安全な出産と母性」について紹介しました。今回は、「栄養と母乳」、「新生児のケア」そして「ワクチン」について紹介したいと思います。

ハイチでは、特に「母乳」に関しての問題が大きいようです。アフリカでの飢餓のような、顕著な栄養失調はハイチでは見られません。もちろん、まったく問題がないわけではないのですが、それよりも母乳の与え方が問題です。WHO は、2 歳まで母乳を与えることを推奨しています。しかしハイチでは、6 か月未満の子供に対しても離乳食のような食事を与えることが非常に多く見られます。ユニセフのデータでは、6 か月以下の乳児が母乳だけを飲んでいる割合はわずか 41%です(2006-2010 年)。時には生後 1 か月どころか、1 週間にも満たない新生児に対しても離乳食を与えます。初めて聞いた時には、「赤ちゃんになんでごはん?? ホンマじゃないでしょう…」と思いました。が、フィールドに行って納得しました。やはりスタッフの言うとおりに、新生児に離乳食を食べさせていました。見ていると、赤ちゃんもすでに与えられて慣れているのか、意外にうまく食べています。しかし、うまく食べているといってもやはり新生児ですから、胃の形も違えば、歯もまったく生えておらず、吐き戻したり下痢をしたりして、脱水になる場合もあるようです。下痢をしなくても、赤ちゃんに必要な栄養は十分に取れませんから、栄養失調になるわけです。

つい先日、コミュニティミーティングを開催し、ボランティアさんたち同士の意見交換をしました。コミュニティのボランティアさんの一人が、「自分たちの地域には貧しい人が多くて、赤ちゃん(新生児)に与える食事を買うことができず、栄養失調になっている」と訴えていました。でもすかさず、他の地域のボランティアさんが、「それはお母さんがしっかり栄養を取って、母乳を赤ちゃんに与えることが大事なんだ」と意見を述べていました。レオガンでは、大人の栄養失調はほとんど見たことがありません。ポルトープランスのような大都市では、結構、栄養失調の人がいます。都市では食べるものは買うか貰うか、あるいは時には盗んだりしないと手に入りません。一方、レオガンは田舎なので、辺りにマンゴーやバナナ、ココナッツなどがありますから、まったく食べるものがないという状況ではないからだと、推測しています。(※←前文の()内が長いので、取りました。)したがって、赤ちゃんに母乳を与えることができないほど、お母さんが栄養失調になっているとは考えにくいのです。赤ちゃんに食事を与えるという習慣が定着していることがわかる一例だと思います。ボランティアさんも、「母乳栄養の必要性を理解してもらって習慣を変えていくことにつなげることは、とても難しいがどのようにしたらいいのか?」と、そのあとも話し合っていました。結論としては、地道に啓もう活動や母乳栄養推奨キャンペーンなどの活動を続けていこう、という話になりました。

「新生児のケア」に関しては、ほとんどきちんとした知識がないようです。それはボランティアさんたちにもいえ、その部分の啓蒙活動をあまり行っていないようです。いま中間評価の最中ですが、質問票からは知識がほとんどないことが読み取れます。ハイチの新生児が出生時に低体重で生まれてくる割合は、25%もありますから、それだけでも十分なケアが必要になってきます。新生児黄疸や臍帯のケアなど、色々なことに対する啓もう活動を強化していく必要性を実感しています。



沐浴をしているお母さんに指導中です

「ワクチン」に関しても同じように問題は山積みです。ハイチでのワクチン接種は、下図のようになっています。

す。

Regular vaccination in Haiti		
ワクチン		接種時期
BCG	Single dose	出生時
ポリオ	dose 0	出生時-生後15日
	dose 1	生後6週間後
	dose 2	生後4か月
	dose 3	生後7-8か月
DTP	dose 1	生後6週間後
	dose 2	生後4か月
	dose 3	生後7-8か月
麻疹	Single dose	生後9か月
Dt/TETOX	dose 1	女性 15-49歳
	dose 2	

ハイチでのワクチン接種率は、かなり低いです(日本もワクチン接種に関していろいろ問題があり、ワクチン接種に関しては決して進んでいるとは言えませんが)。2010年のBCG接種率は75%、DTP(三種混合)の第1回接種率は83%です。しかし、これが3回すべて接種した率となると、59%に激減します。ポリオも同時期に行うので、同様に59%と下がります。麻疹は子供にとって大敵の病気ですが、その予防接種率も低く59%です。

自宅出産の場合には、出生時のポリオやBCGを受けることはありません。後で医療施設に行き受ければいいのですが、母子手帳を見ている限りでは、受けていないままの人が多そうです。さらに、ユニセフのデータが示すように、1回や2回は予防接種を受けているものの、その後は真っ白の母子手帳という人も少なくありません。でも、きちんと母子手帳を保存している場合が多く、なくなってしまったという人は比較的少ないようです。もちろん、1回も子供を予防接種に連れて行ったことがないという人もいます。

予防接種率の低さを改善するために、ハイチでは時々、大々的な予防接種キャンペーンが行われます。2010年の大地震の後にもハイチの保健省とWHOが中心となり、DTPや麻疹などの予防接種キャンペーンを行いました。この時のキャンペーンには、私自身や本院から派遣されていた矢野さん、エアトレさんなどが参加していたのですが、日赤を含めた多くの赤十字社が協力し、比較的スムーズにきました。

しかし、今回は思っていた以上に大変でした。ハイチの保健省が計画し、WHOが協力していたキャンペーンは、予定では第1回目が4月の後半、2回目がその1か月後に実施するというものでしたが、まずキャンペーンのスローガンが決まりません。結局スローガンが決まったのは、キャンペーンの始まる3日くらい前で、それから小冊子やポスターを印刷して配らなければなりません。一番の問題は、どのように予防接種を実施するか、ということです。キャンペーン前に何度も保健省の担当者と会議をしましたが、まずどの地域にどれくらいの対象者がいるのかを、保健省は明確に把握していません。また、どれくらいの予防接種チームがレオガンで活動するのかもぎりぎりまで不明で、まったく計画を立てることができません。どの地域にいつ行くのかが決まっていないので、当然のことながら地域の人たちにも正確な日にちをアナウンスすることができなくなってしまいます。キャンペーンのために赤十字のボランティアさん達は、地域住民に「予防接種キャンペーンには子供を連れて行きましょう！」と啓蒙活動を行っていますから、キャンペーンが実施されなければ、嘘をついたのと同じです。このまま放っておくと、確実にキャンペーンは失敗に終わってしまうと、非常に焦りました。結局、レオガンで活動している赤十字(他の赤十字も含めて)の対象エリアの日程表を作り、毎朝7時に保健省の事務所に行き、チームを現地に運ぶ方法をとりました。

これがまた大変です。まず時間通りには、人は集まりません。7時に保健省の事務所に行っても、出発できるのは10時近くになります。時には、もっと遅くなることもありました。やっとのことで人をかき集めてフィールドに送るものの、なぜか1チームに30人分ほどのワクチンしか持って行きません。「なんで？」と担当者に聞くと、64チームを対象者人数と日数で割ると、1チームにつき30人になるということです。でもそこには、休日もすべて含まれているのです。場所によっては、1日しか行く予定になっていないのですから、すべての対象者を接種する必要があるのに、30人接種するのは半日もかからないわけです。その日は終わり、その場所にも二度と行きません。持てるだけ持って行くように変更するのにも、喧々諤々の論議です。しかし、そのあとも

悪夢は終わりません。毎日毎日、フィールドに行くチームが減っていくのです。最初は 64 チームだったのが、最終的には半分以下のチームしかいませんでした。それでも、何とかキャンペーンは終了しました。



実際に注射しているのはハイチの保健省が雇用した予防接種キャンペーンのモバイルチームのメンバー。レオガンのスタッフやボランティアさんたちは、その補佐と啓もう活動をメインに行っていました

さて次は、第 2 回目です。1 か月後なので、当然私たちの日々の活動との連携を考えていかなければなりません。ところが、1 か月後にはできないから、2 か月後。そして 3 か月後、4 か月後と次々に計画が変更され、ついに予防接種が行われたのは、12 月でした。そして 12 月のキャンペーンは、ペンタバレン (DTP+Hib+HepB) の 5 種混合ワクチンの紹介キャンペーンという、当初の計画とは全く似ても似つかぬものになってしまいました。ボランティアさん達も啓蒙活動を行っていましたが、何度も計画が変更されるので、やる気もすっかり失われていました。地域住民も同様です。また短期間ではなく 1 か月以上の長期間のキャンペーンだったため、もともとの地域の活動も重視しなくてはならず、あまり保健省にサポートもできませんでした。結論としては、12 月のキャンペーンは失敗したという感じです。非常に残念なことでした。

ワクチンの接種率を上げるというのは、簡単そうで非常に難しいものです。私自身の実感としては、キャンペーンを行うより、地道に啓もう活動を行い、確実に定期的な予防接種を行うよう勧めていくことが、最も効果的でなおかつ継続的だと思っています。

それでは、池田からの最後の「ハイチ レオガン日記」となります。

最後に、ハイチ 救急法クイズ

ハイチで救急法に関して質問しましたが、どのような答えがあったでしょうか？

火傷に対してはどのような対処法が適していますか？

1. 冷やす
2. トマトソースを塗る
3. ガソリンを塗る
4. 歯磨き粉を塗る
5. ヤギの糞を砕いて塗る

正解は、トマトソース、ガソリン、歯磨き粉、ヤギの糞でした。「冷やす」という答えは、一つもありませんでした(今までにチェックした中間評価の質問票の回答より)。ちなみにもっとも多かった珍解答が、「歯磨き粉」で、その次が、なぜだか「トマトソース」です。次に「ガソリン」でしたが、どうも地域によって対処方法に偏りがあるようです。